



1. はじめに

平成25年3月定例議会の開会に当たり、議員各位並びに村民皆様のご健勝を心から喜び申し上げますとともに、日々のご精励に対し深く敬意を表します。

本定例議会は、平成25年度の財政運営の基本となります。予算(案)をはじめ重要案件について提案を致しておりますので、議案の説明に先立ち、村政運営に当たり所信の一端を申し述べ議員各位並びに村民皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

私、大城勝正は平成17年(2005年)4月から2期無投票の榮譽に浴し村民の負託を受け、村政運営を担当してから、8年の歳月を迎えます。時の経つのは早いもので、その間、議員各位並びに村民皆様の温かい激励と要請、要望にお応えし、自分の目標とする政策実現に可能な限り邁進し、「健康で平和な豊かな活力

ある村づくり」に職員共ども誠意をもって対処してまいりました。行政は何時の時代でも村民の豊かさを追求し、歩まなければならないことは勿論ですが、完工を見ずして引き継ぐものもあります。全職員一丸となって対応してまいります。

さて、平成23年3月11日に起きた東北地方太平洋沖地震による大津波は、未曾有の被害をもたらした。さらに福島第一原子力発電所の崩壊によって放射能汚染が広範囲で拡がり、震災発生から2年の歳月を迎えた今日、復旧・復興に国を始め地方自治体が万全を期し対応されています。しかし、除染作業等には長い年月と費用を伴いますが、被災者の皆様の一日も早く平穏な生活が享受できることを願っております。

また、昨年は相次ぐ大型台風の影響により、農作物への被害、家屋の倒壊や浸水等多大な影響を及ぼし、国内外でも地震、集中豪雨による河川や堤防の決壊など自然災害の恐ろしさを痛感させられた平成24年ではなかったでしょう。

県内においては、日本復帰40周年の節目を迎え、復帰記念事業として、天皇皇后両陛下をお迎えしての「全国豊かな海づくり大会」をはじめ、「全国土地



改良大会」などの多くの全国大会が開催されました。村内においても、新船フェリー「いえしま」が旧軍飛行場用地問題解決地主会の支援と協力により、国、県の助成で就航することができました。また安全性と機能性あふれる西小学校校舎、園舎が完成し、教育の充実、発展に寄与するものと思料いたします。

我が村は、第一次産業が主要であり、農業振興の基盤といわれる水・緑・土の三要素の増進を図り、その実現に向けて取り組んでおります。水産業の基盤整備は、中核施設である漁港施設などはほぼ整備されてきましたが、製氷施設など耐用年数の経過とともに早期に整備が必要なものもあります。

このように幾多のハード・ソフト事業の推進と厳しい難題もありますが、平成25年度も村民の豊かさを追求し共に歩む「協働」による「自主・自立」の村づくりに議員各位並びに村民皆様の更なるご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2. 基本的な考え方

国においては、豊かさと希望あふれる強い経済へ展開させるために、平成24年度の大規模補正予算と平成25年度予算と合わせた、いわゆる「15ヶ月予算」により、切れ目のない経済対策を実行し、国民一人ひとりが豊かな生活が実感できる経済対策を期待するところであります。

地域経済の活性化と雇用の創出を図るために、平成24年度補正予算において追加された公共事業等の地方負担額の8割程度を限度額として交付される「地域の元気臨時交付金」が創設されることから、その事業申請に向けて取り組んでいるところがあります。また、平成10年度から交付されているSACCO交付金の改定年度にあたることから、関係機関へ継続的な予算確保を要請してきましたが、財源の確保がなされたとの情報もありますので、明らかになった時

点で事業内容等をお示し有効に活用したいと考えております。沖縄県においても、昨年策定されました「沖縄21世紀ビジョン基本計画」に基づいて「沖縄らしい優しい社会の構築」及び「強くしなやかな自立型経済の構築」の実現に向けて、各施策が推進されているところであります。

平成24年度に創設された、沖縄振興特別推進交付金が平成25年度も803億円が確保され、本村においても前年度同額の3億1千万円が配分されることになりましたので、人工透析施設の平成26年度開設に向けて、建築工事、医療器材等の整備を推進してまいります。さらに、沖縄県分の沖縄振興特別推進交付金で実施される事業を最大限に活用し、本村の懸案事項の解決に向けて、全庁体制で積極的な事業獲得に取り組み、迅速かつ効果的な事業展開に努めてまいります。

本村の第4次総合計画の将来像である「互いに支え合い、誇りを持って、豊かな気持ちで暮らし続けられる村」の構築を目指して、各施策の展望として掲げる次の施策を基本として、

(1)「誇りを持って働き続けられる村」

(2)「考える力、行動する力、生きる力を育む村」

(3)「子供から大人まで、心も体も健康に暮らせる村」

(4)「自然を育み、自然に育まれる村」

(5)「資源を活かし暮らしの安全と快適を守る村」

(6)「自律した村民が新しい公共を支える村」

の実現に向けた、農水産業、商工観光業の振興、人材育成と教育環境の整備、歴史文化の継承に努めるとともに、福祉の向上と医療保健の充実、生活環境の整備や情報通信基盤の整備、自然災害対策の強化、自然エネルギーの推進など諸施策の展開を加速させることはもとより、本村の地理的不利性を克服するための課題解決にも積極的に取り組んでまいります。

また、行政改革の推進にあたっては、新たな意識改革のもとに行政組織のスリム化と事務事業の見直し等を行いながら、村民参加と協働の仕組みを構築することが重要であり、伊江村行政改革推進本部を中心に、全庁的な職員参加のもと、実施項目を達成するため、主体的、具体的に取組み着実な推進を図ってまいります。

本村の財政は依然として、脆弱な財政基盤、硬直した財政構造など厳しい財政事情にあることから、地域活性化に向けた自主的、主体的な施策を展開するためには、自主財

源の確保に努めるとともに、国・県の高率補助制度の有効活用を図り、中長期的な視点に立った健全な財政運営を進めてまいります。

村民や行政を取り巻く社会情勢の変化や財政構造改革、地域主権改革が推進される今日にあっては、これまで以上に地方自治体の自主性・自立性が求められ、多様化する住民ニーズを的確に捉え、効率的で効果的な行政運営を図ることが重要であります。職員一人ひとりが、これからの信頼される行政と、より水準の高い行政サービスの実現に向けて、日々の職務に精励し、公僕としての自覚のもと勇往堅実な取り組みに努めてまいります。

3. 主要施策

(1) 農林水産業の振興について

我が国の経済は、東日本大震災の影響から緩やかな回復基調にあるが、TPP交渉参加の問題や、急速な高齢化と人口減少、格差社会の拡大など、様々な課題が山積してまいります。

本村におきましては、昨年9月の台風16号、17号の大型台風の襲来により、さとうきび、とうがん、花キ等に大きな被害を受け、特に牛舎の破損の

被害が大きく、今後の農業経営が厳しい状況にあり、農作物の持続的生産力を図るために、農家の資金確保を図るべく、県が支援する農業災害対策特別資金利子補給金等を平成23年度に引き続き農家への支援を行ってきました。しかしながら、牛舎の被害の助成につきましても、国の支援する事業はないか調査しましたが、該当する事業がなく、畜産農家には依然として厳しい状況であり、JA伊江支店、その他関係機関等に支援策はないか、調査、協議を行い今後に備えたいと思っております。

さて、本村は農業用水に乏しく、平成16年度から着手しております国営かんがい排水事業地下ダムも平成27年度で事業完了予定であります。引き続き関連事業である県営・団体営かんがい排水事業を推進していくとともに、農地保全整備事業では西崎第一地区が事業完了し、西崎第二地区、フナズ地区の農地防風林の整備を進めているところであり、緑豊かな村づくりと景観づくりになお一層努めてまいります。

また、平成23年度から着手してきました堆肥センターが概ね完成し、今年の4月から供用開始の予定で、各区公民館で説明会を開き農家の意見を伺い、各団体、生産組合

等の意見をまとめ、堆肥の買
い取り価格、販売価格等を運
営委員会に諮り、準備を進め
ているところであります。

さらに、今後の安定した農
業生産を確立するためにも永
続性のある防風林等の整備が
必要であり、平成24年度で生
産育苗施設が完成し、今後は、
安定的な苗木供給が図られ、
農業生産の向上に繋がります。

水産業につきましては、離
島漁業再生支援事業等で漁場
の環境保全、水産資源の増大
に繋げてきました。また、伊
江漁協組合において、有効資
源を生かした、イカ墨ジュー
シー、イカ墨餃子に続き、モ
ズクゼリーの新商品も開発さ
れ販路拡大に取り組んでおり、
村としても安定した漁業経営
に向け支援して行きます。

さらに、魚類養殖業をはじめ、モズク養殖業、漁船漁業
についても、燃料の高騰や魚
価安で依然として厳しい状況
にあります。離島漁業再生
支援事業等を最大限に活用し、
効率的な漁獲生産高の向上が
図れるよう漁業組合と連携を
とりながら取り組んでまいり
ます。

畜産業については、平成22
年度より開始した優良繁殖雌
牛更新事業により3年間で4
20頭の更新実績があり今年
度で事業最終年度であります。

これまで事業を実施し拠点産
地の取り組みに基づき安定し
た子牛生産、出荷ができ信頼
性のある産地づくりを図って
きましたが、農家、和牛改良
組合等から更新事業をさらに
継続するよう強い要望等が
あり、引き続き平成25年度も事
業実施いたします。

また、去った10月に長崎県
で開催された第10回全国和牛
能力共進会に、本村から若雌
第二区の部門で長嶺勝次さん
所有の「あゆり号」が沖縄県
代表として出場し、全出品頭
数33頭中優等15席に入賞しまし
た。5年に1回開催されるこ
の和牛オリンピックは前回に
続いて県代表として出場でき
たことは、畜産関係者の努力
の賜物であります。また、同
全共大会で、子牛1,000
頭以上市場出荷した繁殖農家
に与えられる賞を名嘉元敏勝
さんが受賞されています。

さらには、県畜産共進会に
おいて、山城和彦さん所有
「ふくかつただ号」が、平成23
年度の内田徹さんに引き続き
農林水産大臣賞を受賞し、2
年振りに団体優勝も果たしま
した。このように畜産関係の
諸般の目的は達成できたもの
の、畜産を取り巻く状況は、
依然とし厳しい状況にあり、
今後は、生産者、和牛改良組
合、JAと連携を図りながら
畜産振興に努めてまいります。

(2) 商工観光産業の振興につ
いて

商工業は、消費者ニーズも
多様化し、また、購買志向も
地方から都市地区へと移る中
で、新たな地域特産品の開発
による消費者ニーズを取り入
れることが、地域経済の活性
化と雇用拡大の面からも極め
て重要であります。

本村の商工業は小規模で個
人経営が大半を占めており一
部を除きけつして経営基盤が
安定しているとはいえない状
況にあります。その中で、商
工会では、商品券の発行やイ
ベントと連携した全国展開支
援事業により地域資源を活用
した特産品の展示販売が、村
民や観光客から好評を得てお
ります。

そこで、平成25年度も引き
続き、商工会活動を支援し、
併せて、村としても特産品開
発販売促進事業を推進して商
工業の活性化に努めてまいり
ます。

観光産業については、昨年
の第20回伊江島一周マラソン
大会は村民各位の協力により
成功裏に終えることができました。
また、来る21回大会を
更なるスタートと考え心機一
転、参加者が心躍る大会を目
指して取組んでまいります。

また、ゆり祭りに向けて植
栽面積の拡大と世界のゆりの

び実施設計に着手します。
学校給食共同調理場は、築
17年余り経過し、機械器具に
おいては耐用年数の超過と同
時に老朽化と旧式のため安全
面や衛生面での改善が求めら
れています。補助事業等によ
る機械器具の導入で施設の整
備を充実させ、安全・安心な
調理場の運営と業務の効率化
かつ円滑化を図ります。

文化の振興では、昭和55年
から始まった各区輪番制の民
俗芸能発表会も昨年度から5
巡目がスタート、今年度は村
民俗芸能保存会が結成40周年
を迎え記念事業として顕彰碑
の建立を行い、節目の年を契
機に組踊り地謡育成に取組み
島独特の素晴らしい芸能の更
なる保存・継承に努めます。
また、本村の民俗芸能の地謡
の中心となつている野村流古
典音楽保存会伊江支部の結成
50周年事業を支援してまいり
ます。

さらに、イージマグチの保
存・継承活動の一環として
「イージマグチ五十音表」を児
童生徒に配布する等のイージ
マグチの伝承活動に取り組ん
でまいります。
社会教育の振興において、
15才で島を離れていく子ども
たちの「生きる力」を育める
ような体験学習の機会を提供
するため各区との連携、こ
ども会・青年会・婦人会など

品優秀賞を頂きました。
雇用においては、堆肥セン
ターの稼働による新たな雇用の
確保、特産品加工支援施設
の完成に伴う、原料の安定し
た確保、製品の品質向上等に
よる新たな雇用が図れるもの
だと考えております。また、
国の震災等緊急雇用対応事業
等を活用して雇用の拡大に努
めます。

(4) 教育文化と社会教育の振
興について

教育施策の推進にあたって、
平成24年7月に策定をされた
沖縄県教育振興計画は、平成
24年度を初年次とする平成33
年度までの10年間の教育総合計
画（総論）と、前期5年間の
（平成28年度）の実施計画（各
論）から構成されており、沖
縄県教育委員会の取り組むべ
き課題とその方策を明確にし
た教育行政運営の基本となる
ものであります。本村におい
ても、県と連動するかたちで
中長期的な教育振興基本計画
の策定に取り組むと同時に、
島立ち教育アクションプラン
を策定し本村独自の教育環境
を踏まえ、具体的な教育施策
を推進してまいります。

特に学力向上の推進につい
ては、学校教育の重要課題と
位置づけ、学校・家庭・地
域・行政の連携を通して「幼
児児童生徒一人ひとりの『確

かな学力』を向上させ、『生き
る力』を育む』を目標に、児
童生徒の自立的な学習習慣の
形成と学習意欲の向上を目指
し、子ども一人ひとりの教育
ニーズに応じた適切な学習支
援を行うため、引き続き学習
支援員を配置いたします。特
に中学校において専門教科を
担当する非常勤講師を配置し
充実した教育環境づくりを目
指します。また、授業改善に
係る研修会及び講師等の招聘
を通して、教職員の意欲喚起、
資質向上に努めます。

村出身高校生の就学支援費
として文部科学省が平成24年
度にスタートした離島高校生
修学支援事業の居住費や通学
費等の助成拡充を行い保護者
の経済的負担軽減を図ります。
さらに子育て支援施策の一
環として、子育て世代の経済
的負担軽減を図るため、村内
の小中学校に通う第3子以降
の児童生徒について、学校給
食費を免除します。また、(財)
日本スポーツ振興センターに
よる、へき地における食に関
する支援事業の廃止に伴う経
費を村が負担し子育て支援、
少子化対策など次世代を担う
子ども達を育てている若い世
代を支援します。

学校教育環境の整備につい
て、本年度は伊江幼稚園園
舎・伊江小学校校舎改築に伴
う、耐力度調査、基本設計及

品種を85品種に増やし、来場
者の期待に添えるようゆりの
管理を行っております。新た
に、今年のゆり祭りからは、
募金箱を設置し、ゆり祭りイ
ベントの資金の一部としての
活用を考えております。

さらに、花による地域活性
化は、ゆり祭りを始め、ハイ
ビスカス祭り、ブーゲンビレ
ア展の開催、伊江村観光振興
事業により四季折々の花々を
植え付けたプラントの設置
による美化推進事業や観光案
内板及び多言語観光案内版の
整備により観光客の満足度を
高めるよう取組でまいります
。平成25年度は、更なる整
備に向けて調査検討をしてま
いります。

そして、「伊江島フラワー
イランド推進協議会」を中核



の各種団体の育成強化に努め
るとともに、時代に即応した
社会教育の推進を図り、中央
公民館を社会教育・生涯学習
の拠点とし、村民のニーズに
あつた諸事業の展開に取り組
んでまいります。

社会体育の振興において、
村民だれでもが健康の保持増
進や体力の向上、生きがいづ
くりを「いつでも、どこでも、
気軽に」をスローガンに掲げ、
子供から中高年齢層を対象と
した各種健康教室の開催や
B&G会員を総合型スポーツ
クラブに発展的に移行しサー
クル活動の充実を図るなど、
幅広い年齢層を対象とした健
康増進事業に取り組む、施設
の利用率の向上を図ると共に
B&G財団評価「特Aランク」
の維持に努めてまいります。

として商工会をはじめとする
各種団体との連携による住民
参加型の「花の島」づくりを
推進し、地域環境の美化に努
めてまいります。

観光協会が始めた民家体験
泊事業も10年を経過し、民泊
事業の受入れ2団体で既に5
万人を突破し、村観光の中枢
を担い、今後も本村の観光を
牽引して行く主要部門だと考
えております。

村といたしましても、沖縄
県産業振興基金事業を活用し
て地域観光情報システムを構
築し、今後もより一層、観光
産業の支援に取り組んでまい
ります。

(3) 製造加工業の振興と雇用
拡大について

製造加工は、黒糖工場の稼
働により雇用の拡大がなされ、
新たな特産品の商品展開が期
待されている所でありますが、
今期は原料となるさとうきび
の不作による加工製品の減少
で雇用拡大の効果も低迷して
いる状況にあり、次期作のさ
とうきびは、増産に努め雇用
の拡大が図れるよう取組んで
まいります。

また、ラム酒の製造におい
ては、順調に製造、販売も展
開しており、離島フェアにお
いて平成23年度のラム酒の
県知事賞に続き、平成24年度
は、ラムカクテルで優良特産

また、平成24年度に策定い
たします「伊江村総合運動公
園全体計画」を踏まえて、総
合的なスポーツ活動拠点施設
整備の事業化に向けて、関係
機関と調整を進めてまいりま
す。

(5) 住民福祉の向上と医療保
健の充実について

健康で安らぎのある思いや
りの生活を支えることは、行
政のみならず地域が協働の心
を持ち共通認識のもと、一体
となつて歩むことが住民の安
全・安心な生活の確保に極め
て重要なことでもあります。

国・県においては、いまだ
に回復が見られない経済情勢
や、人口減少社会に伴う少子
高齢化の急速な進展に伴い、
福祉・医療・年金等の公的な
費用負担の増大とともに生産
年齢人口の減少により、社会
保障制度の将来にわたる安定
維持は大きな課題となつてお
り、社会保障と税の一体改革
が進められようとしておりま
す。村においても福祉の充実
は重要であり、国・県の動向
を十分に把握しながら福祉社
会の構築に努めます。

離島医療の充実は、島民の
定住を図る上で最も重要な条
件で、本村は昭和35年に村営
による診療所開設以来、堅持
している「医療の確保」を優
先的施策として捉え、これま

で同様これからも取組んでまいります。

医師・看護師・技士、医療従事者等の安定確保を確立するとともに、医学生・研修医の受入事業を積極的に展開し医師の労働環境の過重軽減を図り本島の医療格差の軽減に努めます。

また、平成26年度人工透析施設開設に向け、施設の建設、医療器材の整備と透析医療経験者の人材確保と現診療所の医師・看護師の透析医療技術習得のための研修派遣を行います。

障がい者の皆様やその家族が、村外に出かけるときの車両航空料金の負担軽減については、伊江村障がい福祉に関するアンケート調査を踏まえ新年度内で実施してまいりますと考えております。

保育事業では、少子化が進むなか、適正な保育施設規模を維持しながら、子供にとっても親にとっても最適な子育てサービスを安定して提供するために、改築した東保育所と中央保育所の2か所で保護者に安心信頼していただける保育所運営を目指します。

子育て支援では、育児の援助を受けたい者と育児の援助を行いたい者が行う相互援助活動「やんばる町村ファミリーサポートセンター広域事業」に参加し、仕事と育児を両立

の村内経済状況を見極めながら検討してまいります。健全な村営団地の運営に向けて日頃から、適切な管理・維持保全を行い、入居者の連絡や情報交換ができるよう連携を強化し、地域や関係機関とも連携を図り入居者の快適な住居環境に努めてまいります。

(7) 防災行政の推進について

平成23年度に策定した地域防災計画を基に、災害から村民の生命・身体及び財産を保護するため、村民の防災意識の向上を図り、災害発生時においても迅速・適切な対応ができるよう計画的な防災訓練を進めてまいります。災害時には、「自助・共助」が最も大きな力となることから、各区における自主防災組織の立ち上げの推進を図るとともに、各区の防災力強化を進めてまいります。

また、既存の全国瞬時警報システムからの緊急情報を瞬時に幅広く村民へ伝達できるように、戸別受信機や屋外子局の整備強化を進めることにも、災害発生時に必要な物資の計画的な備蓄に向けて検討してまいります。

(8) 情報通信網の推進について

平成17年度から離島地区ブロードバンド環境整備促進事業にてADSL回線が整備さ

できる環境整備を進めてまいります。

村民福祉の向上と健康増進に向けた取り組みとして、現在実施しております「インフラエンジニア予防接種」の無料化、子ども医療費助成(0才〜中学生卒業まで)の拡充実施、幼児期・学童期における「フツ化物洗口」、妊婦検診・お産時の宿泊助成、人工透析患者への船賃助成及び宿泊助成各事業を継続実施し、健康増進の基礎となる住民健診の受診率の向上に努め、健康教育、健康相談の充実を図ります。

次に、村民の健康を守る国民健康保険特別会計は、高齢化の進展等による疾病の多様化や重症化後の受診、医療機器と技術の高度化等により、医療費は増加の一途にあり保険財政は厳しい状況にあり大変憂慮しております。

保険料負担を軽減し安定した財政を確保するには、村民が健康管理に気を配り健康への関心を高めるために、医療機関や事業団体と連携し疾病の早期発見と治療が重要であります。

特定健診、特定保健指導に重点を置いて、疾病予防の重視と医療費の適正化に取組み、特定健診結果を基に内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)の該当者と予備群に対し、今後も特定健診受診率

の向上を図り、効果的な保健指導を進め医療費の抑制を図り、国民健康保険財政の健全化運営に努めてまいります。

後期高齢者医療費制度につきましては、高齢者一人ひとりが住み慣れた地域で安心して生き生きと生活が出来るよう高齢者の個々の状態に応じた介護支援と必要な健康管理指導について、沖縄県後期高齢者医療広域連合と進めてまいります。

介護医療制度は高齢者の増加を踏まえ介護予防事業を積極的に進め要介護状態の軽減や悪化防止に、沖縄県介護保険広域連合と連携を図りながら介護給付の適正化に努めてまいります。

(6) 生活環境の整備について

村民が住みやすく快適な生活ができる生活基盤の整備は重要な施策であり、離島の特徴である自然景観と生活環境の調和を図りながら、村民や各団体・行政が連携して取り組むことが重要であると考えています。近年生活環境の変化と共に、家庭ごみの搬出量が増量傾向にある事や、村民のごみ問題に対する要望等を踏まえ、家庭ごみの分別及び再資源ごみの搬出方法更に粗大ごみの回収等の改善を行い、引き続き村民のゴミ問題に対する意識高揚を図りながらゴ



(9) 自然エネルギーの推進について

地球温暖化対策として、自然エネルギー等の導入促進が求められているなか、これまで、バイオマス燃料の実証実験、風力発電施設の誘致や新たな公共施設の整備では、太陽光発電の設置や省エネ機器の導入を図ってきました。

平成24年度に実施しました「伊江島スマートアイランド構想調査事業」の調査結果を踏まえて、経産省をはじめ、関係機関の事業の積極的な活用による再生可能エネルギーの導入や風力発電施設の誘致など、環境負荷の低減、自然環境に優しい環境共生の島づくりの推進に取り組んでいきたいと考えております。

また、各区公民館、農水産業施設の経費節減のための太陽光発電施設等の導入の促進を図るとともに、個人住宅への太陽光発電施設設置支援の事業化に向けて調査研究を進めてまいります。

ミの減量化に努めてまいります。又、島に訪れる観光客や民泊の子供たちが、島の海岸や自然景観を満喫できるように不法投棄の防止や、各団体等による環境美化作業等による啓発活動、更に合併浄化槽の普及推進等の環境浄化に努め、すみやすい生活環境づくりを積極的に推進してまいります。

その他、平成16年度供用開始のE&Cセンターと平成17年度供用開始の産業廃棄物処理施設は、今後施設維持費がかかることが予想される事から、平成24年度に創設した、伊江村特定防衛施設周辺整備調整交付基金を活用して施設の健全な運営に努めてまいります。

次に、最も身近な生活基盤である道路整備は社会資本整備



(10) 基地行政について

民主党政権時代に迷走した普天間飛行場の移設問題は、今なお、辺野古移設に固執する政府と県外移設及び早期返還を求めている沖縄県知事、県民世論とは大きな隔たりがある状況にあります。普天間飛行場の危険性除去と沖縄の負担軽減が早期に解決されることを望むものであります。

また、オスプレイについては、安全性の確認や県民の不安が払拭されていない中、配備が強行されたことは極めて遺憾であります。本村においても、10月4日に初飛来してから、粉塵の巻上げ、集落上空での旋回飛行、午後10時以降の夜間訓練などを確認しており、その都度関係機関に運用改善を申し入れてきました



事業の村道整備を引き続き進めながら、集落内の区画線設置や各区からの道路補修や側溝補修などの要望事項は現場状況を十分精査しながら生活基盤の整備を図ってまいります。

またこれまで整備された集落内の道路について舗装劣化や損傷状況及び側溝の設置状況の調査を行い、道路整備基本計画を策定し検討してまいります。

集落内の道路を昼夜安心して歩ける生活環境の整備は、防犯対策としても重要なことと考え必要な個所に防犯灯の増設を実施し、地域住民の安心安全な環境整備に努め、村民の福祉に寄与したいと考えています。

次に、村内の居住環境は、近年民間の共同住宅が増えた事や、その他村外の工事関係者の減少等、以前の厳しい借家不足からは、少し改善している傾向であると考えますが、村営団地への入居希望者がまだ多い事も承知しています。つきましては、伊江村における住環境の課題を整理し、今後の住宅施策の基本的方針・目標を設定する目的で、平成25年度伊江村住宅マスタープランを策定し、総合的な住環境の施策展開を推進してまいります。併せて平成24年度に調査してきた住宅リフォーム支援事業も、平成25年度

が、引き続きオスプレイの配備撤回を求めてまいります。

粉塵問題については、沖縄防衛局が、平成24年度に粉塵対策施設の整備を予定していましたが、米軍との調整で設計変更を余儀なくされ、沖縄防衛局において平成25年度の設置工事に向けて取組んでいるところであります。

騒音対策については、騒音測定器の設置により、正確な騒音実態の把握が可能となりましたので、騒音状況に悪化が認められる場合は、早急に住宅防音工事区域指定を関係機関に申し入れていきたいと考えています。

国営地下ダム工事に伴う伊江島分遣隊施設の移設については、隣接する真謝区民の不安を軽減するために、伊江農業水利事業所と連携を密にして、きめ細かな対応に努めるとともに、生活環境に最大限の配慮がなされるように米軍及び関係機関と協議調整してまいります。

今後とも基地の安全な運用の徹底と基地から派生する事件・事故が起きないように米軍及び関係機関に機会があることに強く申し入れてまいります。

(11) 公営企業の充実について

水道事業会計については、自己水源となる湧出水源と2水源からの浄水量は、村全域

会計別予算額調査 (案) 単位:(千円)

会計別	本年度予算額		前年度予算額	増減	伸び率 (%)
	予算額	一般会計繰出			
一般会計	5,224,000		5,900,000	▲ 676,000	▲ 11.46
診療所会計	201,000	30,000	184,000	17,000	9.24
国民健康保険特別会計	1,023,000	159,396	1,018,000	5,000	0.49
後期高齢者医療特別会計	64,000	17,977	58,000	6,000	10.34
船舶運航事業会計	561,163	555	539,626	21,537	3.99
水道事業会計	144,357	1,200	159,025	▲ 14,668	▲ 9.22
合計	7,217,520	209,128	7,858,651	▲ 641,131	▲ 8.16

同調理場備品購入等があり、本村の一般会計は、52億2千4百万円で対前年度予算比▲11.46%と6億7千6百万円の減となっております。

また、特別会計を含めた6会計の合計は、72億1,752万円で対前年比▲8.16%と6億4,113万1千円の減となり内訳は次のとおりであります。

東日本大震災の復旧と復興に国力が注がれる中、さまざまな社会情勢の変化や厳しい財政状況など乗り越えていくべき多くの課題があります。事業の選択と集中、創意と工夫の視点を立って、「互いに支え合い、誇りを持って、豊かな気持ちで暮らし続けられる村」の実現のために、職員とともに邁進する所存であります。

私の任期が、平成25年4月下旬で満了となりますが、停滞させることのできない行政運営と村民サービスに対応するため、通年予算を編成してございますので、深いご理解を賜わり、これからの村政運営について、村民の皆様並びに議員各位のご協力とご支援を賜りますようお願いを申し上げます。私の施政方針とさせていただきます。

平成25年3月12日
伊江村長 大城 勝正

4. おわりに

小麦生産者の皆様へお知らせ

『小麦生産の農業者個別所得補償制度』に伴う農産物検査を実施いたします。検査日の日程は検査機関と調整のうえ防災無線にてお知らせいたします。

※5月上旬実施予定
場所：JA集荷場

お問い合わせ：農林水産課 49-3161

畑作物(小麦)の所得補償交付金

6,360円/60kg (平均交付単価)

を受ける為には下記の条件が必要になっておりますのでご理解の程お願い致します。

① 販売契約書

② 農産物検査



※検査する小麦を“専用袋”に入れてお持ち下さい。(JA資材にて購入)・別途検査料があります。

③ 検査合格

6月末までに交付申請、営農計画書を提出

消費者生活相談窓口を

伊江村役場商工観光課 ☎49-2906 に設置いたしました。

合わせて沖縄県消費者ホットライン(☎0570-064-370)をご活用下さい。

への供給量の3割にも満たず、その他の水源はすべて県企業局からの受水であります。また、自己水確保は天気に大きく左右されるなど、特に、雨が少ない時期には県企業局からの受水に頼らざるを得ない現状にあり、水道事業の経営は依然として厳しい状況にあります。

また、未改修の老朽管からの漏水等は会計を圧迫する要因でありますので、平成25年度も、漏水の早期発見のために調査を実施し、同時に村民並びに利用者皆様の、生活保持に關わる老朽管改修工事を順次進めていくとともに、水道事業の果たす使命を十分認識し、自己水の確保、漏水防止に努め、生活水の「安心・安全」を第一に考え健全運営に努めます。

船舶運航事業会計は、新船「いえしま」が前年3月15日から定期運航をはじめから、より一層の旅客・車両等の輸送能力が向上し、更に航海中の横揺れや振動も少なく、そしてエレベーターや客席などバリアフリー化により、利用者により好評であり喜んでいただいております。

一方、「ぐすく」については、就航21年目を迎えています。が、「いえしま」と比較した場合、その設備、能力面においては著しい差異があることから各

方面から代船建造の要望を承っているところであり、その必然性は十分認識しております。が、建造費は莫大な資金を必要とするため自前では財政的に厳しいものがあり具体的な時期を示せないのが現状であります。

そのような中、沖縄県は沖縄振興特別推進交付金を活用した「離島航路運航安定化支援事業」を県内の赤字離島航路に対して船舶更新を支援する事業として、平成24年度から平成33年度までの10年間に実施されます。

本村も当該事業の平成27年度の代船建造を目途に「船舶更新支援計画」へ組み込んでありますが、本村は県内唯一の黒字離島航路であり現状では、当該事業の補助対象に合致しません。よって、後年度に赤字運営に転落しない場合でも補助対象として対応していただくように、多方面からの要請や関係団体との連携強化を図りながら、県や関係機関に強く訴えていく所存であります。

本年度は燃油の高騰が長く続くことが予想され、運営は厳しくなりますが、一層の安全航行に努め、より良い旅客サービスの向上に徹し観光振興と本村の産業発展、住民生活の向上を図るべく努力してまいります。

これまで、国営・県営事業において生活基盤及び生産基盤の整備が実施され、地域振興の促進が図られてきました。伊江港についても外郭施設の機能強化が図られてきました。が、更なる静穏度の向上を図り、安全で安定的なフェリー運航のための伊江港の整備促進及び本部港駐車場の飽和状態の緩和に向けた駐車場の整備を沖縄県に粘り強く要請していきたく思います。

今後、離島の地理的不利性を克服するために、国営・県営事業での基盤整備を国・県の関係部局に要請していきたく思います。

平成25年度の国・県の事業は次のとおりであります。



(12) 国営・県営事業について

国営	国営かんがい排水事業	継続	ダム止水壁・用水路工・水管理施設等
県営	県営かんがい排水事業	新規	伊江東部地区 (受益面積 123ha)
	県営かんがい排水事業	継続	東江上地区
	県営農地保全整備事業	継続	川平第1地区・第2地区
	県営治山事業	継続	東江上地区・川平地区

(13) 予算概要について

円高の進行や世界景気の減速等を背景にデフレ不況が長期化し、景気の底割れが懸念されていましたが、このデフレ不況の脱却を目指す「日本経済再生に向けた緊急経済対策」いわゆる「アベノミクス」の効果により、円高水準も僅かではありませんが改善の兆しが見え始めております。しかしながら、国内の成長機会や若年雇用の縮小、復興の遅延等、まだまだ先が見えない状況から閉塞感を払拭できず、依然として厳しい状況に見舞

われています。

こうした中で政府は、平成25年度予算において、①復興・防災対策、②成長による富の創出、③暮らしの安心・地域活性化の3分野を重点として、日本経済再生に全力で取り組むとしております。

一方、県においては、沖縄振興自主戦略として沖縄振興一括交付金が平成24年度から導入されておりますが、これまで義務的経費として措置されていた「沖縄振興特別推進交付金」及び「沖縄振興公共投資交付金」に係る事業について、政策的経費として位置づけられました。

これにより、政策的経費が拡大し、新技術の開発や人材育成、暮らしを守る安全・安心の確保等、事業効果や投資効果の高い事業や取り組みの財源として活用でき、柔軟な企画立案が可能となりました。

この一括交付金を財源として、平成25年度は、村立診療所人工透析施設整備事業にて、施設の建設工事や医療器材等の購入を計画しております。

その他主な補助事業として、特産品加工支援施設(展示販売棟建設工事)、農業基盤整備促進事業(排水路工)、村づくり交付金事業(天日干場建設工事等)、団体営農地保全整備事業(フナス地区)、太陽光発電設備設置事業や学校給食共

保健師だより
2



平成25年4月1日から

未熟児養育医療給付の窓口が市町村になりました!

これまで県が窓口でしたが、4月より窓口が市町村へ変わります。医療給付の申請、給付決定の窓口は伊江村となります。また、未熟児訪問も市町村保健師がおこないます。



● 未熟児養育医療とは ●

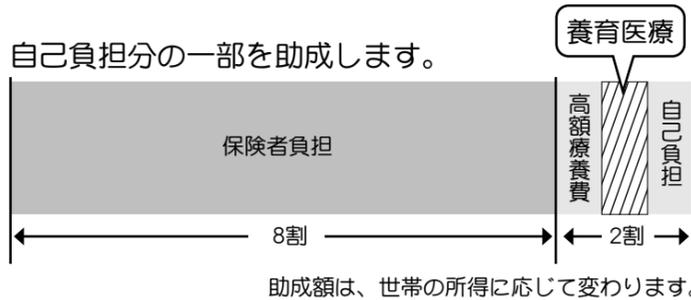
小さく生まれて入院治療が必要な赤ちゃん（未熟児）へ、自己負担額の一部を助成する制度です。助成額は世帯の所得額によって変わります。赤ちゃんが必要な治療を受け、健やかに成長できるよう、医療費をサポートする制度です。

対象者

出生体重2000g以下、または医師の判断によって一定の条件にあてはまり、入院治療が必要な赤ちゃん

給付内容

自己負担分の一部を助成します。



申請窓口

医療保健センター 3階福祉保健課
平日8:30~17:15 (土日・祝日を除く)

申請について

*** 入院中の申請が原則です!!**

- 必要な書類
- ・養育医療給付申請書
 - ・医師の意見書
 - ・世帯調書及び税額証明書
 - ・収入に関する証明書 等

詳しくは福祉保健課までお問い合わせください。



保健師が入院中の面談や退院後の訪問など、それぞれの希望や状態に合わせて応援していきます。

記事に関するお問い合わせ：福祉保健課 49-2234、49-5000

保健師だより
1



2カ月～5歳のお子さんを持つ保護者の方へ

ヒブ・肺炎球菌予防ワクチン接種のお知らせ

① 平成25年4月1日から定期接種となります。

法律で定められた接種となり、全員が接種するよう接種勧奨していきます。

実施：毎週火曜日 午後4時～4時半受付
人数：10名



② 予約の窓口が変わります!

4月1日から、**福祉保健課**での受付になります。

※対象人数が多いため、4月は

平日 朝 8:30~12:00
昼 13:00~17:15
(土日・祝日を除く)

電話：49-2234

来所でも受け付けますので、
いずれかでご予約ください。

- ・2カ月～1歳未満の子、
- ・今まで1回でも接種を受けた子
- ・25年度に5歳になる子

へ、先に案内しています。
それ以外のお子さんには5月以降に案内を行いますので、通知が来てからの予約をお願いします。

● ヒブ・肺炎球菌ワクチンって? ●

* 髄膜炎という病気を予防します。髄膜炎の原因菌の8~9割は、この2つの菌です。

ヒブによる髄膜炎では年間約400人が発症し、約11%が予後不良と推定されており、1歳未満の乳児が過半数を占めています。肺炎球菌による髄膜炎では年間150人前後が発症、うち約21%が予後不良とされています。肺炎球菌による髄膜炎は、より重症になりやすいと言われています。

年齢とともにかかりにくくなりますが、5歳までは危険年齢と言われているため注意が必要です。ヒブ・肺炎球菌ワクチンを接種して、子どもを髄膜炎から守りましょう!



接種回数は開始年齢によって変わります。
詳しくは保健師までお問い合わせください。

お問い合わせ：福祉保健課 49-2234、49-5000

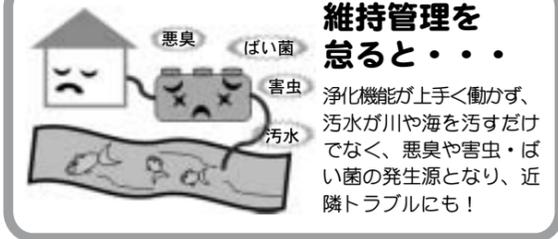
大丈夫? あなたの浄化槽

正しい維持管理（保守点検・清掃・法定検査）していますか？
くみ取りだけで済ませていませんか？
浄化槽は、定期的に専門的なメンテナンスが必要です。
管理を怠ると浄化機能が低下し、悪臭・害虫・ばい菌の発生源に！



きちんと維持管理を行えば

生活排水はきちんと浄化され、川や海にやさしいだけでなく、衛生的な環境で快適に暮らせます！



維持管理を怠ると・・・

浄化機能が上手く働かず、汚水が川や海を汚すだけでなく、悪臭や害虫・ばい菌の発生源となり、近隣トラブルにも！

保守点検業者・浄化槽清掃業者

新島電気水道工事社
49-3436

伊江衛生維持管理社
49-2204

その他浄化槽について不明な点がございましたら、役場建設課 環境衛生係もしくは北部保健所 生活環境班にお問い合わせ下さい。

【お問い合わせ】
役場建設課 環境衛生係 0980-49-3162
北部保健所 生活環境班 0980-52-2636

障害児者の歯科治療について

障害があるため日常の歯の健康管理がむずかしく、また意思表示が十分でないため一般の歯科医院での治療が困難な障害児（者）の歯科治療を下記により実施します。
ご希望の方は **4月25日(木)** までに市町村窓口や下記、問い合わせ先までお申込みください。



全身麻酔下歯科治療実施期間等

- 期 間：平成25年6月5日(水) ~ 7月3日(水)
- 場 所：県立北部病院
- 対象者：一般歯科治療が困難な障害児・者（障害の程度は問いません）



◎お問い合わせ
沖縄県福祉保健部 障害保健福祉課 (098)866-2190
沖縄県歯科医師会立口腔衛生センター (098)879-8350

※治療内容、費用負担等のお問い合わせは、沖縄県歯科医師会立口腔衛生センターまでご連絡ください。

※全身麻酔下での治療ですので、麻酔治療で体に異常をきたさないかどうか事前に予備検診を行い、対象者を決定いたします。施設に入所している方も受けられます。
※予備検診(5月上旬)⇒本検診(5月中下旬)の2回の検診があります。検診にかかる費用は自己負担になります。

石油製品輸送等補助事業



沖縄県は、県内で消費される揮発油について「沖縄の復帰に伴う特別措置に関する法律」により、揮発油(ガソリン)に係る税金(国税：揮発油税及び地方揮発油税)が1リットル当たり7円軽減されています。

また、本措置を前提に、沖縄県において石油価格調整税(県税)を揮発油1リットル当たり1.5円課税し、その税収を実質的な財源として、「石油製品輸送等補助事業」を行っております。

この「石油製品輸送等補助事業」では、離島地域における石油製品価格の安定と円滑な供給を図ることを目的として、沖縄本島から県内離島へ輸送される石油製品(揮発油・灯油・軽油・A重油)の輸送経費のほぼ全額を補助しております。

平成23年度補助経費金額

約8億1,407万円

石油製品1リットルあたりの補助額

約6円(離島平均)

【質問等問い合わせ先】
沖縄県企画部 地域・離島課 離島振興班
TEL: 098-866-2370
FAX: 098-866-2068

狂犬病予防注射

日時：平成25年5月15日(水)

実施獣医	時間	公民館
	10:00~10:45	真 謝
金城 文安	11:00~11:45	西 崎
金城動物病院	13:15~14:00	西江前
	14:15~15:00	川 平

日時：平成25年5月16日(木)

実施獣医	時間	公民館
	10:00~10:45	阿 良
崎浜 美香子	11:00~11:45	東江前
動物病院 そらの救急	13:15~14:00	東江上
	14:15~15:00	西江上

※自分の区の実施日及び実施時間帯で都合の悪い方は、他の区の公民館でも予防注射を受けられます。
※予防注射は、飼主の義務です。漏れのないようよろしくお願いします。

ペットのエチケット

最近、路上や公園内へのペットのフンに関する苦情や、それにとともなう悪臭に関する苦情が多く寄せられています。
放置フンは景観を損ねるのに加え、近隣の住民・通行する人にとっても大変迷惑となります。
犬の散歩時は、エチケット袋を持参し、環境衛生にご協力下さい。



ハブ咬症注意!!

伊江村では昨年2件のハブ咬症が報告されています。気温が暖かくなるとハブの行動が活発になり、咬症被害が多く発生するため注意が必要です。

ハブの特徴

- ①夜行性で薄暗くなつてから活動を始める。
- ②出血毒を有し人体に入ると毛細血管を壊すため、激しい痛みと腫れをもたらす。
- ③攻撃範囲は体長の3分の2程度。



ハブに咬まれたら

- ①激しい動きをしない。(走ったりしない!)
- ②応急処置として傷口から吸引機等で毒を繰り返し吸い出しましょう。
※口から毒を吸い出しても人体に問題ありませんが、他人の口からの吸引は感染症等の恐れがあるので避けるように。
- ③早急に医療機関で治療を受けましょう。
- ④病院まで時間がかかる場合は、血の流れを減らす程度にゆるく縛ります。

詳しいお問い合わせは 伊江村役場 建設課 環境衛生係 電話 49-3162

満1歳 お誕生日おめでとう



蔵下 紗愛来 (さくら) ちゃん
 性別：女
 生年月日：平成24年4月1日生
 父：蔵下 晴樹
 母：蔵下 樹理
 行政区：川平
 姉ねえ達に負けない逞しい紗愛来。
 やさしいお姉ちゃんになってね♡



照屋 桜翔 (おと) くん
 性別：男
 生年月日：平成24年4月13日生
 父：照屋 俊昭
 母：照屋 優香
 行政区：西近前
 いつも笑顔もありがとう！
 優しく強く育ってください。



比嘉 琥珀 (こはく) くん
 性別：男
 生年月日：平成24年4月19日生
 父：比嘉 脩晶
 母：比嘉 彩
 行政区：西近前
 笑顔が最高の琥珀♡
 お兄ちゃんと仲良く元気に育ってや!!

平成25年 ゆり祭り、ゴールデンウィーク期間中フェリー運航表

4月20日(土)、21日(日)、22日(月)、23日(火)、24日(水)
 25日(木)、26日(金)、30日(火)、5月1日(水)、2日(木)

便	伊江発	本部発
1	8:00	9:00
2	10:00	11:00
3	13:00	15:00
4	16:00	17:00

※4月20日(土)から4月26日(金)と4月30日(火)から5月2日(木)は、平常運航で臨時便は予定していません。

4月27日(土)、28日(日)、29日(月)
 5月3日(金)、4(土)、5日(日)、6日(月)

便	伊江発	本部発
1	8:00	9:00
2	9:00	10:00
3	10:00	11:00
4	11:00	13:00
5	13:00	15:00
6	14:00	16:00
7	15:00	17:00
8	16:00	17:30

車両航送のご協力について

1. 車両航送は要予約になります。
2. 航送券は、出航の1時間前から30分前までには購入してください。
3. 航送券購入後は、出航20分前までに、待機所で車両を待機させておいてください。尚、出航20分前までに待機所にいない車両については、スペース待ちの車両を繰り上げて航送しますので注意してください。
4. お帰りの際は、30分前までに、切符売場にて係員の検認を受けてください。
5. 予約後のキャンセルについては、連絡するようお願いしていますが、スペース待ちのお客様についても連絡くださいますようお願いいたします。

お問合わせ先 伊江港 0980-49-2255 (事前予約) 本部港 0980-47-3940 (本部発当日予約)

長い間ご苦勞さまでした

3月31日付けで、定年・勸奨・普通退職にて
 知念貞博 (住民課長) 具志川豊秀 (公営企業課長)
 下門秀幸 (ECセンター所長) 名嘉敬子 (幼稚園教諭)
 知念光江 (図書館司書) 知念富太郎 (福祉保健課補佐・社協出向) 内間枝美子 (看護師) 横山公一 (総務課主事) 8名の皆さんが退職しました。これまで各々の立場で地域住民へのサービス向上にご尽力くださいました。



御寄付御礼

【人材育成会】

● 川平八六番地
 仲宗根友弘様より
 故 父 仲宗根武弘様
 香典返し

● 川平二九一番地
 鳥袋恒政様より
 故 姉 鳥袋静子様
 香典返し

● 西江前一六七八番地
 金城清助様より
 故 妻 金城ヨシ様
 香典返し

● 那覇市銘苅二二二一六番地
 (株)アート設計
 代表取締役
 前川朝貞様より
 百万円

● 川平六三四一番地
 知念貞博様
 ● 東江前六一〇番地
 名嘉敬子様

● 西江上三九番地
 知念光江様
 ● 東江上四四一番地
 具志川豊秀様

● 川平二八四二番地
 下門秀幸様
 ● 東江上三八六一番地
 知念富太郎様

● 東江前三一九二一番地
 内間枝美子様
 役場退職記念として
 六十五万円

● 【社会福祉協議会】
 川平八六番地
 仲宗根友弘様より
 故 父 仲宗根武弘様
 香典返し

● 東江上二二三番地
 知念金蔵様より
 故 妻 知念チエ子様
 香典返し

● 紙面を借りて
 御礼申し上げます。